

国立民族学博物館の研究

【機関研究】

機関研究は、国際性と機関間連携を重視した館全体が取り組む重点型の共同研究です。錯綜する現代的課題をターゲットにした新たな人文・社会科学を展開していくために、2つの領域を設定し、関連諸分野と協力しながら創成的な研究を行います。

【共同研究】

特定のテーマについて、公募も含めて館内外の専門家を数人から20人程度集めて研究会をひらき、2～3年という比較的短い期間で成果をあげる活動です。2011年度には45件の共同研究プロジェクトが組織されています。

【機関研究】

研究課題	研究代表者	研究期間 (年度)
「包摂と自律の人間学」領域 代表：西尾哲夫		
近代ヒスパニック世界における国家・共同体・アイデンティティ—スペイン領アメリカの集住政策の研究	齋藤 晃	2011-2013
ケアと育みの人類学	鈴木七美	2011-2013
支援の人類学：グローバルな互恵性の構築に向けて	鈴木 紀	2009-2012
「マテリアリティの人間学」領域 代表：岸上伸啓		
布と人間の人類学的研究	関本照夫	2011-2012
モノの崇拜：所有・収集・表象研究の新展開	竹沢尚一郎	2009-2012

【共同研究】

●印は公募による実施課題、◆印は特別客員教員(申請時)による実施課題

◎一般

研究課題	研究代表者	研究期間 (年度)
課題1：文化人類学・民族学および関連諸分野を含む幅広い研究		
パレスチナ・ナショナリズムとシオニズムの交差点	菅瀬晶子	2011-2014
ストリート・ウィズダムとローカリティの創出に関する人類学的研究	関根康正	2011-2014 ●
人の移動と身分証明の人類学	陳 天璽	2011-2014
ネパールにおける「包摂」をめぐる言説と社会動態に関する比較民族誌的研究	名和克郎	2011-2014 ●
NGO 活動の現場に関する人類学的研究	信田敏宏	2011-2014
—グローバル支援の時代における新たな関係性への視座		
物質性の人類学 (物性・感性・存在論を焦点として)	古谷嘉章	2011-2014 ◆
グローバリゼーションの中で変容する南アジア芸能の人類学的研究	松川恭子	2011-2014 ●
現代の保健・医療・福祉の現場における「子どものいのち」	道信良子	2011-2014 ●
実践と感情—開発人類学の新展開	関根久雄	2011-2013 ◆
日本の「近代化」をアジア・アフリカ諸社会との比較で再検討する	川田順造	2010-2013 ●
海外における人類学的日本研究の総合的分析	桑山敬己	2010-2013 ●
人類学における家族研究の新たな可能性	小池 誠	2010-2013 ◆
日本の移民コミュニティと移民言語	庄司博史	2010-2013
非境界型世界の研究—中東的な人間関係のしくみ	堀内正樹	2010-2013 ●
驚異譚にみる文化交流の諸相—中東・ヨーロッパを中心に—	山中由里子	2010-2013
手織機と織物の通文化的研究	吉本 忍	2010-2013
日本におけるネイティブ人類学/民俗学の成立と文化運動：1930年代から1960年代まで	重信幸彦	2010-2012 ●
中国における民族文化の資源化とポリテクス	塚田誠之	2010-2012
—南部地域を中心とした人類学・歴史学的研究		
朝鮮半島北部地域の民俗文化に関する基礎的研究	朝倉敏夫	2009-2012
サファリングとケアの人類学的研究	浮ヶ谷幸代	2009-2012 ●
プラント・マテリアルをめぐる価値づけと関係性	落合雪野	2009-2012 ●
言語の系統関係を探る—その方法論と歴史学研究における意味—	菊澤律子	2009-2012
オセアニアにおける独立期以降の〈紛争〉に関する比較民族誌的研究	丹羽典生	2009-2012
アジア・アフリカ地域社会における〈デモクラシー〉の人類学—参加・運動・ガバナンス	真崎克彦	2009-2012 ●
映像の共有人類学—映像をわちあうための方法と理論—	村尾静二	2009-2012 ●
リスクと不確実性、および未来についての人類学的研究	東 賢太郎	2008-2011 ●
人類の移動誌：進化的視点から	印東道子	2008-2011
生の複雑性をめぐる人類学的研究：「第四世界」の新たな記述にむけて	小田 亮	2008-2011 ●
ポスト社会主義以後の社会変容—比較民族誌的研究	佐々木史郎	2008-2011
マイノリティと音楽の複合的關係に関する人類学的研究	寺田吉孝	2008-2011
ジェンダー視点による「仕事」の文化人類学的研究	中谷文美	2008-2011 ●
課題2：本館の所蔵する資料に関する研究		
音盤を通してみる声の近代—台湾・上海・日本で発売されたレコードの比較研究を中心に	劉 麟玉	2011-2014 ●
梅棹忠夫モンゴル研究資料の学術的利用	小長谷有紀	2011-2013
民俗行事における造り物の多様性	福原敏男	2008-2011 ●
課題3：本館の機関研究(2004-2009年度)に関連する研究		
平和・紛争・暴力に関する人類学的研究の可能性	小田博志	2008-2011 ◆
中国における社会と文化の再構築—グローカリゼーションの視点から	韓 敏	2008-2011
ウェルビーイング(福祉)の思想とライフデザイン	鈴木七美	2008-2011
フェアトレードの思想と実践	鈴木 紀	2008-2011
民族学博物館における表現創出を活用した異文化理解プログラムの開発	西 洋子	2008-2011 ◆
～多元的な場での“気づきの深化”のデザイン化～		
リプロダクションと家族のオールターナティブデザイン—文化と歴史の視点から	松岡悦子	2008-2011 ●
◎若手		
研究課題	代表者	研究期間 (年度)
課題1：文化人類学・民族学および関連諸分野を含む幅広い研究		
帰還移民の比較民族誌的研究—帰還・故郷をめぐる概念と生活世界	奈倉京子	2011-2013 ●
交錯する態度への民族誌的接近—連辞符人類学の再考、そしてその先へ	岩佐光広	2010-2012 ●
内陸アジアの宗教復興—体制移行と越境を経験した多文化社会における宗教実践の展開	藤本透子	2010-2012 ●
映像資料を活用したイスラームの多様性に関する地域間比較研究	吉本康子	2010-2012 ●
〈アサイラム空間〉の人類学：社会的包摂をめぐる開発と福祉パラダイムを再考する	内藤直樹	2009-2011 ●